

経営力向上支援事業における高度技術モデル実証等の実施状況について

〔 令和2年11月19日
農業経営発展課 〕

1 要旨

収益性の高い生産技術の確立に向けて、経営力向上支援事業において取り組んでいる高度技術モデル実証等について実施状況を報告する。

2 実施状況

(1) 施設栽培における環境制御技術の実証

環境制御技術とは、施設（ハウス）内の温度や湿度、光、炭酸ガス濃度や養水分などを調節し、作物の生育に最適な環境にする技術のことで、作物の光合成量を最大にして収量・品質を高め、単位面積当たりの生産性を向上することにより、投資効率の改善を図ることを目的としている。

現在、本県の環境に適応した技術の確立と普及を目指し、現地で実証試験に取り組んでいる。

既に2月から試験を開始しているトマトについては、順調に収量が増加しており、北広島町では実証前の約2倍（概ね目標どおり）、神石高原町では実証前の1.3倍を超える増収となるものと見込んでいる。

品目	実施市町	単収		実証内容	
		実証前	目標	導入技術	実証開始
トマト	北広島町	4.7t/10a	9.0t/10a	モニタリングした環境データをもとに、統合環境制御機器により温湿度や炭酸ガス濃度を自動的に調整。	R2.2～
	神石高原町	14.6t/10a	26.8t/10a		R2.2～
きゅうり	呉市倉橋町	6.5t/10a	30.0t/10a		R3.2～
	江田島市	20.2t/10a	30.3t/10a		R2.9～
レモン	尾道市瀬戸田町	4.1t/10a	6.5t/10a		R2.11～
	大崎上島町	3.5t/10a	6.0t/10a		R2.11～

※ 北広島町のトマトはミニトマト

(2) 沿岸部の水田を利用したレモン栽培の実証

レモンは、気温が-3℃を下回ると枯死する恐れがあることから、温暖な島しょ部地域で栽培され、現在、生産を拡大している。

しかしながら、島しょ部地域には平坦地が少なく、今後、生産を拡大する余地が少ないことから、沿岸部の水田でのレモン生産の拡大を目指し、寒波対策の現地実証試験を行い、その効果を確認するとともに、収益性を分析する。

品目	実施市町	単収		実証内容	
		実証前	目標	導入技術	実証開始
レモン	東広島市安芸津町	2.5t/10a	3.8t/10a	太陽電池式自動灌水施肥装置の導入。 防霜ファン・防霜ヒーターによる防寒対策の実施。	R2.12～

あわせて、ICTを活用して、沿岸部の水田など23ヶ所（呉市、東広島市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、大崎上島町）で気象を観測し、寒波被害が回避できる栽培適地を特定し、マッピングしていく。